献　辞

戦後まもなく京都大学法学部助手として民法学界に登場された中務先生は、若くして指導的存在となられ、その後も京都大学教授として長く学界をリードしてこられました。昭和三十八年以来、民事訴訟法学会の理事、私法学会の監事を務められました。大正十一年にお生まれになった先生は戦後日本の学界を支えた第一世代に属する方であります。証拠法や執行、民事保全の領域を研究分野とされ、実務的問題に強い関心を寄せられました。周到な準備を明析な文体で表現された数々の論文は、われわれ後進の範とすべきものであります。

本学におこしいただいて五年あまり、共に教育研究に携わることができた期間は僅かでしたが、温厚篤実なご性格からわれわれが受けた影響は大であります。あたたかく学生を見守られ熱心に若い研究者の報告を聞いておられた中務先生、ささやかですがこの論文集を先生に捧げます。

一九九二年一一月

法学部長　蔵　重　毅